



中高生フォトグラファー応援マガジン

boys & girls photo magazine

No.327

# TopEye



TopEye

全国高校生

2026 写真サミット

— REPORT —

1/30<sub>金</sub> ~ 2/1<sub>日</sub>

2025年度 TopEye フォトコンテスト 入賞作品展

ニコンプラザ東京 THE GALLERY 3/17<sub>火</sub> ~ 3/30<sub>月</sub>

ニコンプラザ大阪 THE GALLERY 4/9<sub>水</sub> ~ 4/22<sub>水</sub>



「闘志」朝倉 夢翔

千葉県立君津高等学校2年

2025年度  
TopEye  
フォトコンテスト  
年度賞発表!



「彩りの中で」荒坂真妃  
八代白百合学園高等学校1年(熊本県)



## 和歌山県立 神島高等学校

DATA >>

部員数：25名  
顧問：恵納 崇

組写真部門：730点  
単写真部門：290点

総得点：1020点



右から恵納 崇先生、太田斗真さん、中芝 海里さん、濱本 海里さん



右から中西 琢也先生、西 小春さん、谷坂 陽菜さん、木吉 彩乃さん



## 八代白百合学園 高等学校 (熊本県)

DATA >>

部員数：28名  
顧問：中西 琢也

組写真部門：460点  
単写真部門：300点

総得点：760点

# 年度賞発表!

TopEye全国高校生写真サミット2026にて、TopEyeフォトコンテスト2025の年度賞表彰式&授賞式が行われました。その模様をお届けします! 年度賞は、2025年度第1回~第4回までのTopEyeフォトコンテストへの応募を対象に集計しています。採点項目はTopEye賞100pt、金賞70pt、銀賞40pt、銅賞20pt、入選10pt、新人賞10ptからなり、各項目の合計ポイントを算出。1位が最優秀賞、2位が優秀賞、3位が敢闘賞となっています。



## 神戸国際大学 附属高等学校 (兵庫県)

DATA >>

部員数: 21名  
第1顧問: 渡邊 陽介

組写真部門: 10点  
単写真部門: 270点

**総得点: 280点**



右から渡邊 陽介先生、榎本 航大さん、岡田 将樹さん、寺田 綾乃さん

## 表彰式&授与式 PLAYBACK!!



ニコイメーキング  
ジャパン上村社長より  
生徒の皆さんに  
ご挨拶がありました!

### 和歌山県立神島高等学校



#### 代表者のコトバ

こんなに素晴らしい賞をいただけるなんて嬉しいです。ここにいる私たちだけでなく、部員全員でたくさん写真を撮って頑張った賞だと思っています。私は3年生なのでこれで引退ですが、後輩にはこれからもTopEyeフォトコンテストを頑張ってください!(谷坂 陽菜さん)

#### 代表者のコトバ

敢闘賞をありがとうございます。上の賞には届きませんでしたが、ここまで来ることができて良かったです。次のTopEyeフォトコンテストではもっと上の賞を取れるように、これからも写真活動を頑張っていきます!(岡田 将樹さん)



#### 代表者のコトバ

TopEyeコンテストは1年生の頃から大事にしていたコンテストです。最優秀賞をいただいたこと、こうして部員たちと東京での式典に招待していただけただこと、とても嬉しく思います。早く他の部員にも知らせて、いっぱい喜び合いたいです!(濱本 海里さん)

### 八代白百合学園高等学校(熊本県)



### 神戸国際大学附属高等学校(兵庫県)



# TopEye フォトコンテスト

## 組写真 部門

どう見せて何を伝えたいのか。セレクトする力が大きなカギとなる組写真部門。限られた枚数の中で、しっかりとストーリーを紡ぐことができていた作品がひとときわ輝いていました。



賞状 CREATORSグッズ3点  
+FLTトートバッグ  
+本革スリムストラップ



### 「闘志」朝倉 夢翔

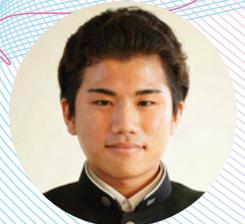
千葉県立君津高等学校2年

「ボクシングという競技の持つ力強さや野性味が、舞台裏の視点から見事に表現できています。特定の選手ではなく、ミットなどの道具を主役にする事で、日々の厳しい鍛錬の積み重ねが伝わってきますね。ローアングルによって、ジム特有の空気感や緊張感、汗の匂いまで感じられるような画づくりになっているのも印象的。瞬間を思いきりよく捉えられています」(熊切)

「縦イチ構図で主題を明確にし、被写体にぐっと迫ることで、ボクシングの激しさや勢いをうまく表せていますね。光を効果的に使い、選手や道具に的確にスポットが当たった瞬間を捉えている点も印象的です。蛍光灯の緑がかかった色味をそのまま活かすことで、競技の生々しさをたいなものも伝わってきます」(秋山)

### 受賞のコトバ

この度はTopEye賞に選んでいただきありがとうございます。この作品はボクシングジムで撮影させていただきました。小学生からサラリーマンまで幅広い年齢の方が通っており、どなたも優しくて楽しい撮影になりました。目の前でスパーリングやサンドバッグを蹴る音など迫力が凄まじく、彼らの「闘志」を感じたのでこのタイトルをつけました。彼らの「闘志」を感じてもらえたら嬉しいです。



1、2年生にとっては一年の頑張りの集大成。  
 そして、3年生は将来の進路に関わる重要な時期ですが、今回も力作がたくさん集まりました。  
 次年度も皆さんの写真活動に期待しています！

# 金賞

2025  
第4回

賞状

CREATORSイージーラッパー

Moleskine Nikon F3デザイン  
オリジナルノートブック

## 「証」 濱本 海里

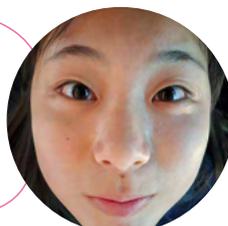
和歌山県立神島高等学校2年

「靴下やスイカを加えることで、重々しいドキュメンタリーではなく、おばあちゃんの愛らしさが見え隠れするような作品に仕上がっています。日々のささやかな喜びが描かれているように感じました。多様な視点を用いることで、動きの少ない題材に視線で流れをつけた点もお見事。枚数以上の世界の広がりを生み出せています」(熊切)  
 「靴下を脱いだおばあちゃんを起点に、4枚の写真で日常の小さなストーリーが丁寧に描かれています。水仕事や庭仕事を終え、ひと息ついてスイカを味わうまでの流れが自然に伝わってくるようです。穏やかな光で撮影することによって、1人の時間の優しさや、日常生活の温もりを感じ取ることができました」(秋山)



## 受賞のコトバ

2回目の金賞。結果を知ったときものすごく嬉しかったです。この家には、家族とともに刻んだ年月が今も息づいています。今はひとりぼっちでも、それら一つひとつが「私たちがここにいた」という確かな証です。この写真も、私が写真部で活動していることの証です。今年度は、TopEye賞1つ、金賞2つ、銀賞1つと、TopEyeでたくさんの思い出と成績を得ることができました。これも、尊敬する恵納先生のおかげです。TopEye大好きです。





「曙」松川 ゆず

東京都立総合芸術高等学校1年

「曙」は、街中の賑わいと人気のない室内という対比を通して、外と内の距離感や孤独感のようなものを表現した点が印象的です。さらに一体感を高めるために、窓越しなど外と内をつなぐようなカットを加えたり、外の景色のカットを増やしたり、屋内外で画角や距離感をそろえる工夫があるとよいでしょう」(秋山)



賞状 Nikonオリジナル キルティングポーチ

「親しむ日常」

荒坂 眞妃

八代百合学園 高等学校1年(熊本県)



「親しむ日常」は、働く人々を飾らない視点で捉えており、下町らしいハッピーでユーモラスな表現がおもしろいです。特に鏡越しに写された人物のカットは、魅力につながる周囲の空間までしっかり取り込んだ点に拍手。一方で、猫の写真はリズムから外れた印象があり、セレクトを絞ることで完成度がさらに高まると感じました」(熊切)

「shadow flash moment」

國本 晴

和歌山県立神島高等学校1年

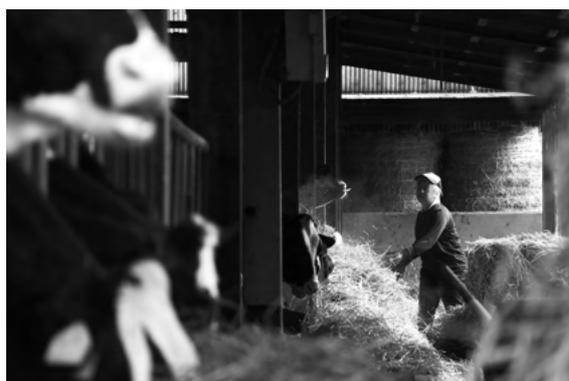
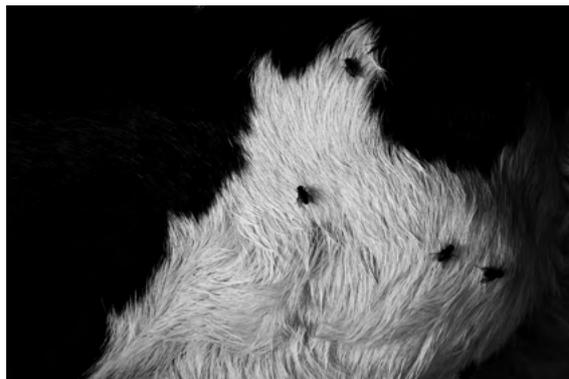
「shadow flash moment」は、独自の視点と鮮やかな色彩によって、作者の視線そのものを感じさせる個性的な作品。ラフな構図が動きや熱気を生み、祭りの象徴的な瞬間をオンラインワンの形で捉えています。ただ、最右のカットは加工感が惜しかった。もう少しナチュラルにして全体とのバランスを取ると、よりよい組写真になるはず」(熊切)



賞状 Moleskine Nikon F3デザイン オリジナルノートブック

「生きる」川名 乙寧

千葉県立君津高等学校2年



「楽しみ祈り」は、祭りの写真にありがちな記録的表現にとどまらず、「印象的な光」を軸とした徹底的なテーマ性が秀逸です。光によって引き立つ色彩の豊かさが印象に残ります。被写体である神輿や担ぎ手にもしっかりと寄れており、迫力が伝わってきます」(熊切)

「導かれて」は、3枚の並べ方によって心地よいリズムを作り出しており、配置に明確な意図が感じられますね。夜の撮影でありながら光的に捉え、赤色をポイントにした点もとてもよいです。静けさの中に、祭りの気配が立ち上がるような臨場感があります」(秋山)

「牛は白黒の模様をモノクロで捉えることで存在感が際立ち、一方で人物は色を失うことで静かに様子を見守っているように見えます。生きるように見えます。生物同士の対比が光っています。牛舎全体を写さずに寄り引きを意識したカットからは、作品づくりへの高い意欲が感じられました」(秋山)

「楽しみ祈り」中芝 海里

和歌山県立神島高等学校2年



「導かれて」服部 栞奈

沖縄県立浦添工業高等学校2年



# 銅賞

2025  
第4回

賞状 CREATORSレンズケース

「〈選び、揺れ、委ねる〉は、屋外の青と屋内のオレンジという色彩の対比から、冬のイメージを巧みに表現できた作品です。少し距離を置いて自分の生活を見つめる視点が新鮮で、子どもの手や遊ぶ姿から世代の移ろいも感じ取れます。計画的というより、日常を丁寧に記録する中で組み上げられた構成が、見る人を静かにセンチメンタルな気持ちへと導いてくれます」(秋山)

「〈忘れないからね〉は、記録写真の原点に立ち返り、時間をかけて被写体に寄り添い続けた覚悟を感じます。目を背けたいような場面も丁寧に捉え、実際に起きた出来事を印象的に表現できていますね。人物だけでなく象徴的な物を織り交せてバリエーションをつけた点も素晴らしい。また、最後の背中一枚によって、家族の感情や絆まで写し出しているように思います」(熊切)

「忘れないからね」三條 颯太  
宮城県白石工業高等学校3年



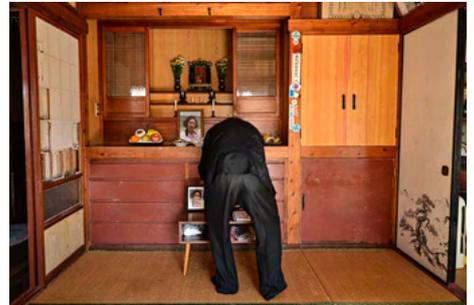
「一心不乱」太田 斗真  
和歌山県立神島高等学校2年



「選び、揺れ、委ねる」山崎実優  
 錦城高等学校1年(東京都)



「拝啓、おばあちゃんへ」中山鈴花  
 沖縄県立浦添工業高等学校3年



「100年の歴史」森真之  
 東京都立武蔵村山高等学校1年



# 入選

2025  
第4回

賞状 CREATORSステッカー

「〈一瞬は、前にある〉は、スローシャッターやラフな切り取り方によって、まるで踊るように撮影したのではと思わせる作品です。強いコントラストと蛍光がかった色彩がマッチし、写真全体がスパークしているかのような。人物の自然な表情や動きからも、被写体に向き合うときの“近さ”が見て取れ、興味をそそります。カメラを身体の一部のように使いこなしているのでしょう」(秋山)

「〈変幻自在〉は、街中で見つけたデザイン性のおもしろさを的確に切り取ることで、“発見する楽しさ”をよく表せています。青・白・赤の色彩も効果的に機能し、3枚を並べたときに組み写真ならではの統一感がありますね。一方で、視点やピントの置き方を徹底してそろえてあげると、さらに作品が磨かれるのではという伸び代も感じました」(熊切)

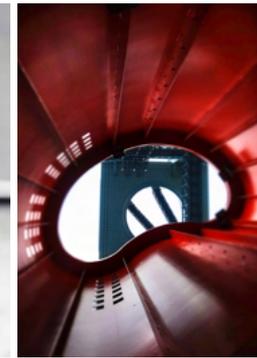
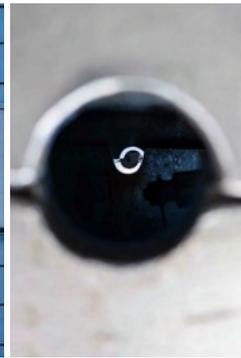
「身近」 金井陽樹  
神戸国際大学附属高等学校2年



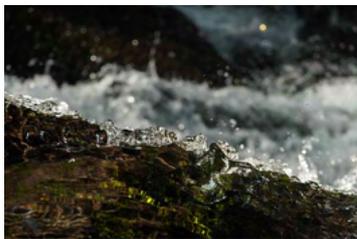
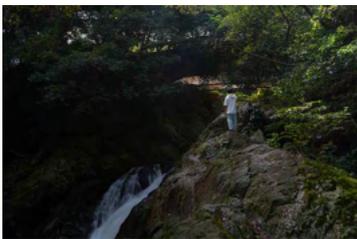
「一瞬は、前にある」  
八頭司 莉桜香  
富田高等学校3年(岐阜県)



「変幻自在」 大塚菜南子  
福井県立丹生高等学校3年



「流れ」 横江 景太 愛媛県立新居浜工業高等学校2年



「歩み」 山本 奈央 和歌山県立神島高等学校1年



「一丸となる漢たち」 谷本 果音奈 和歌山県立神島高等学校1年



「静寂」 岩寄 朱里 八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「積もる」 若狭 奈央 八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「Taking slow breaths」 山中 すみれ 和歌山県立神島高等学校3年



「冬の風物詩」 志水 華歩 八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



# 単写真部門

1年生の躍進が目立った今回の単写真部門。心を動かされた瞬間を切り取ったような、作者の純粋な視点が感じられる作品が審査員の先生方を惹きつけました。



- 賞状 CREATORSグッズ3点  
 +FLTトートバッグ  
 +本革スリムストラップ

## 「彩りの中で」 荒坂 真妃

八代白百合学園高等学校1年(熊本県)

「かわいらしい被写体の存在感と自然な表情に加え、二人の関係性や小さなドラマが感じられる作品です。情報量が多ながらも統一感があり、シャボン玉や柔らかな日差しの演出が世界観を豊かに広げています。人物に寄りすぎずに空間を生かしたことで、ボケやきらめきによって被写体の魅力がよりいっそう引き立っている。この構図の作り方も見事です」(熊切)  
 「前ボケの水玉模様と人物の重なりは偶然性の高い奇跡的な瞬間で、そのチャンスをしっかりとモノにしているのが素晴らしいです。子どもの自然な表情と、手を差し伸べる人物の仕草から、世代の差や二人の関係性が伝わってきます。印象的な金色の装飾品よりも子どもの表情に光が当たっており、見せたい部分を的確に際立たせた高い完成度に驚きました」(秋山)

## 受賞のコトバ

この度はTopEye賞に選出させていただいたことに感謝しています。この作品は姉妹が仲睦まじく話している姿を、シャボン玉が放つ光と合わせて撮影しました。その場で感じた姉の妹に対する優しい気持ちを表したいと思い、美しい反射光をぼかして一緒に構成しています。この写真を見る人にもそれを感じていただければと思います。初対面の私のため、被写体となってくれた姉妹に心から感謝しています。





賞状 CREATORSイージーラッパー  
Moleskine Nikon F3デザイン  
オリジナルノートブック

### 「Who」新垣 遥大

沖縄県立真和志高等学校1年

「生成AIによる合成や加工が当たり前になった今、あえて古い写真を切り貼りするコラージュ表現に立ち返り、新鮮な魅力を感じさせてくれました。パズルのように素材を集め、福笑いのように組み上げていく過程の楽しさが画面から伝わってきます。表現の原点を見つめ直すことで、新たな可能性に気づかせてくれた作品です」(熊切)

「実在の人物とコラージュされた紙素材の色彩やモノクロ表現の違いを生かし、平面的な写真にレイヤーによる奥行きや立体感を生み出しています。色の差によってふわっと浮かび上がっているような仕上がりが印象的です。人の手によって配置された笑顔のパーツが、内面や他者から見た表情の違いを想像させ、読み取りの深い表現へとつながっています」(秋山)

### 受賞のコトバ

この度は、金賞に選んでいただき本当にありがとうございます。金賞をいただくことができ、大変嬉しく思っております。今回の結果に満足することなく、さらに上を目指し、これまで以上に写真と向き合い、より一層上達できるよう努力していきたいと思えます。この写真を撮るために手伝ってくれたみんな、本当にありがとう!!



賞状 Nikonオリジナル  
キルティングポーチ



### 「肅然な一時」高橋 心優

千葉県立四街道高等学校1年

「(肅然な一時)は、シチュエーションがおもしろいですね。掃除をするおばあさんと不気味なタコの滑り台が組み合わさることで、強い異物感と不思議な魅力が生み出されています。ボケを生かした奥行き表現も効果的でした。一方で、足元がやや詰まり気味な印象が。地面をもう少し入れると全体のバランスがより整うでしょう」(熊切)



### 「孵化」進司 夏鈴

神奈川県立横浜瀬谷高等学校1年

「(孵化)は、人物を包み込む草の配置によって、巢や殻に閉じこもるような内省的イメージが立ち上がる点に惹かれました。コントラストを高めたことで肌の質感が浮かび上がり、縦位置構図に斜めに入る草が奥行きを生み出しています。俯瞰でありながら立体感もあり、とてもいいアングルから被写体を狙うことができています」(秋山)

### 「おぼつかぬ足」吉田 睦月

千葉県立四街道高等学校1年

「(おぼつかぬ足)は土管の配置がバランスよく、作品全体に安定感があります。人物の一部を切り取って周辺の明るさをやや落として仕上げることで、円と足のフォルムのおもしろさが際立っていますね。光の具合もよく、人物の足元に入るエッジライトによって無機物と有機物の対比みたいなものが巧みに表現できているように感じました」(秋山)





賞状 Moleskine Nikon F3デザイン  
オリジナルノートブック

「〈勝利〉は、勝利の瞬間という最もフォトジェニックな場面を捉えながら、笑顔だけでなく複雑な感情の交錯まで描き出していますね。歓喜する選手のそばでうずくまる姿を写し込むことで、勝利の重みがより深く伝わってきます。派手に流れがちな場面で、グラウンドに生まれるドラマを見逃さず切り取った点が素晴らしいです」(熊切)

「〈氣勢〉は、馬が登場する祭りならではの力強さが、男性たちの表情や動きとともに鮮明に写し出されています。やや逆光の難しい状況ながら、馬も人も美しく仕上がっていますね。人が主役になりがちな場面で、馬の表情を非常によく切り取ることができている点も目を引きました。人と馬の力がぶつかり合っているような、迫力にあふれた1枚です」(熊切)

「〈夜明けの晩〉は、群れを生かした表現に、俯瞰やブレを組み合わせることで、想像力を掻き立てる新鮮な視点を生み出しています。中央の人物を鮮やかな色彩で際立たせ、周囲の色を落ち着かせることで主題が明確に伝わります。円を完結させずフレームアウトさせた構成も独自のアイデアが光っていますね」(秋山)

### 「勝利」吉永 花音

八代百合学園高等学校1年(熊本県)



### 「氣勢」岩寄 朱里

八代百合学園高等学校2年(熊本県)



### 「夜明けの晩」中本 季菜

米子松蔭高等学校2年(鳥取県)



# 銅賞

2025  
第4回

賞状 CREATORSレンズケース

「**静寂の介入**」は、ゴンドラと建物の組み合わせが近未来的。水平を意識した仕上げによって、デザイン性の高い1枚になっています。ゴンドラが主役になりそうな構図ですが、背景に広がる集合住宅とそこに垣間見える人々の暮らしが見られるのも魅力になっている点でおもしろいです。生活の気配が想像力を刺激する、情報量豊かな1枚です」(熊切)  
 「**こころのかたち**」は、すごくストレートな1枚ですね。この寝相のときだけ見られるであろう瞬間から、撮り手と猫との距離の近さや温度感が伝わってきます。自分が「好き」、「おもしろい」と感じたものを素直に切り取った姿勢が好印象で、見せたいポイントに大胆に寄った構図も、その魅力をしっかりと伝えています」(秋山)

「**静寂の介入**」  
遠藤 佑  
錦城高等学校1年(東京都)



「**黄色い歓声**」  
井桁 妃菜  
千葉県立四街道高等学校2年



「**昼休み**」  
森賀 慧彦

愛媛県立新居浜工業高等学校3年

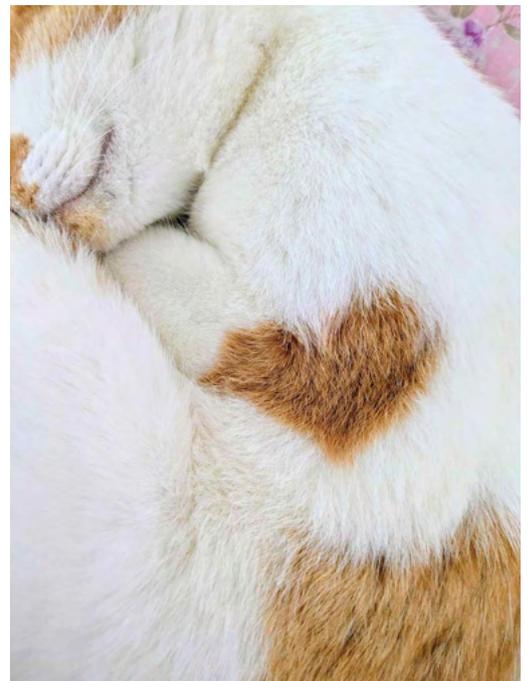


「**予兆**」  
麻生 優奈

八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「**こころのかたち**」  
高宮 ひまり  
尚志高等学校2年(福島県)





賞状 CREATORSステッカー

「つながり」は、携帯電話の使い方を教えているであろう日常の一場面が、共感を呼ぶストーリーとして伝わってきます。“ここを押すんだよ”という会話が聞こえてきそうな瞬間性が魅力的です。手元だけでなく、飲み干されたグラスなど周囲の要素を写し込むことで、時間の経過や場の空気感まで写し出すことができています」(熊切)  
 「<begrudge>は、人物をぼかすことで人体標本にまるで生命が宿っているかのような不思議な存在感を生み出しています。青みのある色合いが現実離れた雰囲気、物語のワンシーンを覗き込んでいるような気持ちになりました。適切な焦点距離とボケを生かし、人体模型が静かにこちらを見ている様子をうまく表現できています」(秋山)

「僕らの夏。」梅田 泰輔

神奈川県立横浜瀬谷高等学校3年



「begrudge」檜貝 和花

千葉県立四街道高等学校1年



「息を合わせて」岡 凜花

和歌山県立神島高等学校1年



「Scattered」中芝 海里

和歌山県立神島高等学校2年



「西湖」王 弘明

東邦高等学校2年(愛知県)



「狙う」李 凜花

東京都立国際高等学校2年



「つながり」山口 優月

大阪府立生野高等学校2年



## 「聖なる灯りの中で」 寺田 綾乃

神戸国際大学附属高等学校1年(兵庫県)



## 「二面性」 岡田 将樹

神戸国際大学附属高等学校2年(兵庫県)



## 「孤独」 城戸 ひかり

八代白百合学園高等学校1年(熊本県)



# TopEye フォトコンテスト 2025年度 第4回 総評

## セレクトする力を磨こう！ 時には「1枚で见せる勇氣」も必要

熊切：今回の審査で感じたのは、1年生のレベルがさらに上がってきたな、ということです。これはもうはっきりと実感しました。1年間しっかり取り組んできた成果が、作品としてきちんと表れていたと思います。

秋山：そうですね。今の手応えを信じて次の学年でも撮影を続けてほしいです。一方で、組写真部門においてはセレクト力の重要性がより見えてきた回だったとも感じました。

熊切：組写真は組み合わせ次第で作品のパワーを大きく高められる反面、逆に弱

めてしまうこともありますよね。いろいろな組み合わせを試してみて、相性やストーリーを考える力をさらに鍛えてほしいです。

秋山：写真には、単写真で成立するものと組写真にして初めて生きてくるものがあります。「良いのが撮れた!」と思ったとき、その見極めを改めて意識するといいかもできません。そして、あえて単写真として見せる勇氣も大事です。主となる写真が撮れたなら、それを無理に肉付けしようとせず、1枚の作品として見せるという選択肢を持っておいてもいいのではないのでしょうか。



### 審査員 秋山 華子

大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブ アドバイザー。

### 審査員 熊切 大輔

東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部を経てフリーランスの写真家として独立。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。





# TopEye 全国高校生 写真サミット — REPORT —



## 開会式の様子

3日間に及ぶTopEye全国高校生写真サミットが、6年ぶりに開催。全国から写真へのアツい気持ちを持った10校の仲間たちが集合しました！



熊切 大輔先生、秋山 華子先生、松尾 純先生が生徒をサポート！



TopEyeフォトコンテスト審査員でおなじみの熊切 大輔先生、秋山 華子先生、そして松尾 純先生がゲストで参加してくれました。

## ニコンミュージアムツアー 自己紹介／撮影実習作戦会議

ニコン（本社）イノベーションセンターに併設されているニコンミュージアムを見たあとは、サミットのためだけに作られた自己紹介カードをみんなで交換！そして、翌日の撮影実習に備えてグループで作戦を練りました。



たくさんさんのカメラにテンションMAX！

# 撮影実習

2日目の午前は、異なる学校の生徒たちが5人1組となり、3つのコースのエリアで撮影実習を行いました。  
 天気にも恵まれ、写真家の先生方にアドバイスをもらいながら、思い思いに街を切り取ります。

A,B GROUP

## 天王洲アイランド周辺

with 秋山 華子先生

C,D GROUP

## 浜松町周辺

with 熊切 大輔先生

E,F GROUP

## 有楽町周辺

with 松尾 純先生



地域の方々にも積極的にアタック!!



先生のアドバイスをすぐ実践!



東京/天王洲 ©Tennoz Art Festival 2019  
 Art work by DIEGO



いい写真は撮れたかな?

# 写真セレクト指導／プリントワークショップ

2日目の午後は、撮影実習で撮影したデータをセレクトし、ひとつの組写真に。  
 カメラの操作方法から、セレクトする際のポイント、プリンターの使い方など、写真家の先生方に指導してもらいながら翌日のプレゼンへの準備を進めました。

3人の先生がアドバイス!!



セレクトして、プリントして、テーマ&タイトルを決めて、ひとつの作品が完成!!

# 3日目

## グループ作品発表

3日目は、ニコン本社のアトリウムに全員集合。前日の撮影実習で制作した組写真作品のプレゼンを行いました。自作の詩からスタートするなど、アイデアに富んだ発表で作品に込めた思いをアピール!



右から知花 結さん、岡田 将樹さん、小松田 唯夏さん、山田 美咲さん、長谷川 直人さん



右から山口 優月さん、玉置 莉子さん、谷坂 陽菜さん、京谷 実咲さん、瀧本 海里さん



右から木吉 彩乃さん、大森 恵太さん、中山 鈴花さん、前田 琉和さん、岩田 麻央さん



右から中芝 海里さん、寺田 綾乃さん、磯野 来未さん、山根 春月さん、今井 二胡さん



右から幸地 今梨さん、山口 玲奈さん、飯塚 大和さん、太田 斗真さん、伊藤 佳穂さん



右から中原 颯汰さん、坂本 リエさん、西 小春さん、榎本 航大さん、津村 綾花さん

発表が終わった後は、写真家の先生方からの講評や、他グループからのコメント、質疑応答を行いました!



### 写真家 トークセッション

当日の内容をすこしお届け!!

Q 今、写真を頑張る学生たちに伝えたいことは?

秋山先生: この先、人によっては写真をお休みすることもあると思います。でも写真って、どんな状況でも寄り添ってくれる最高の表現方法なんですよね。だから、一度お休みしたからといって辞めずに、続けてほしいですね。

熊切先生: そうですね。撮れないときは撮れない。そのときは、無理する必要はないんです。一度お休みすることも、次の写真に繋がります。ただ完全に辞めるのはさみしいので、長い人生のパートナーのように、写真のある生活を楽しんでほしいです。

松尾先生: はい。私も継続することかなと思います。あとは、いい写真じゃなくてもいいから、「自分らしい写真」を撮ること。なかなか難しいことではあるけれど、「自分らしさ」を見つけたら、それを何よりも大切にしてほしいです。

3日間に渡ってサミットに協力してくださった熊切先生、秋山先生、松尾先生。3人が生徒の皆さんと同世代の頃、一体どのように写真活動と向き合っていたのか。当時を写真とともに振り返っていただきました。



右から松尾 純先生、秋山 華子先生、熊切 大輔先生

# GROUP A

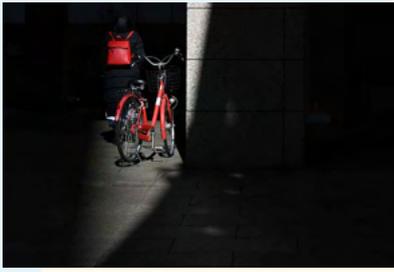
## 「なんとかなったよね」

### テーマ

「私たちは地方出身で、最初は東京を無機質で冷たい色の街だと感じていました。赤は危険や注意の象徴に見えていましたが、多くの人に声をかけ、撮影を承諾してもらい、モデルになってもらう中で、赤は次第に温かい色へと変わっていきました。街も灰色から少しずつ鮮やかになり、埋もれていた東京の優しさに触れることができました。慣れない東京での挑戦だったけど、私たち、なんとかなったよね」

### 秋山先生より講評

「普段撮る被写体がそれぞれ違うメンバーが集まり、“まずは撮ってみよう”という姿勢から制作が始まりました。撮影中も互いの写真を見せ合い、相談しながら作品を掘り下げていく姿が印象的でした。赤というモチーフを通して、色の意味だけでなく自分自身と向き合い、思いを重ねていったことが伝わってきます。刺激を受けながら成長していく過程が作品に表れており、見る人に“ああ、どうにかなるんだ”という力を与える、温かくパワーのある作品でした」



## 「あふれる」

### テーマ

「私たちは、個性的な壁や場所で、それぞれ違う制服や髪型のまま撮影しました。写真を選んでいく中で、髪型も制服もバラバラな自分たちを見ていたら、“個性は無理に出そうとして作るものではなく、いつの間にか自分の中にあるもの”だと気づくことができました。今までは周りがキラキラして見えていましたが、今はこのままの自分をそれぞれが愛していきたいと思っています。好きなものを貫き、撮り続けること。それが私たちの個性です」

### 秋山先生より講評

「以前からの友達のように和やかな雰囲気で作っていましたね。アイデア出しも積極的で、現場で実現可能かを考えながらテーマを探っていた様子に、各々のこれまでの積み重ねを感じました。慣れない環境で自分を見失いがちな中、カラフルな背景の前で笑顔のないポートレートをそろえ、それぞれの個性を浮かび上がらせた点もよかったです。見る人が過去や今の自分と重ねられる共感性の高い作品で、短い時間の中でも粘り強く自分と向き合う姿勢に心を打たれました」

- 1: 東京／天王洲 ©Tennoz Art Festival 2019  
Art work by DIEGO
- 2: River eyes ©Tennoz Art Festival 2021  
Art work by KINJO
- 3: Untitled ©Tennoz Art Festival 2025  
Art work by Barry McGeer
- 4: 何も語るな、何も記憶するな、全て忘れろ  
©Tennoz Art Festival 2025 Art work by 浅井裕介
- 5: 巡り循環 ©Tennoz Art Festival 2021 Art work by 吉野もも



# GROUP B

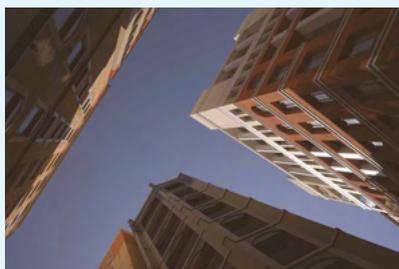
## 「あの日は、」

### テーマ

「あなたに出会ったあの日を探しました。あの日は、澄み渡る冬の風が頬を優しく撫でる、枯れた日でした。そんな思い出を胸に抱きしめ、今日を歩きました。あの日のあなたに会えることを願って。東京の街は正しく、人と人が行き交い、淡々と過ぎ去っていく時間が流れているように感じました。けれど、過ぎ去った愛おしい時間を眺めることで、今ある幸せをもっと拾い集めようと思えた時間でした」

### 熊切先生より講評

「感情や心の動きに軸足を置いた作品づくりが印象的でした。街の風景を漠然と見つめる視点を、モノクロとカラーの組み合わせという難しい構成でうまくまとめています。タイトル『あの日は、』は小説の書き出しのようで、見る人に想像の余地を与え、“もし自分がそこにいたら”と考えさせる力があります。写真から漂う気配や余韻が、見る側それぞれの“あの日”を引き出すような、想像力を掻き立てる表現になっていました」



## GROUP D

## 「夢からログアウト」

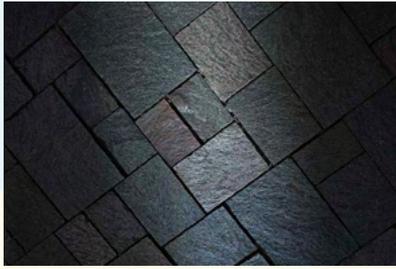
### テーマ

「テーマは“空想の世界”です。今回の撮影では、竹芝客船ターミナルとイタリア街を訪れました。街並みはどこか異国のようで、日本にいながら現実から少し離れた世界に来たように感じました。そこで、1枚目の時計の写真から物語が始まり、非現実的なストーリーへとつながっていく作品を作ろうと考えました。タイムスリップした世界で荷物を持ち、自分自身で行き先を選びながら歩き、やがて現実の世界へ戻っていく……そんな物語です」

### 熊切先生より講評

「このグループは、起承転結のあるおもしろい流れの作品になりました。時計から始まり、迷い込んだ異世界のような空間を進み、最後の1枚で現実に戻される構成がとても興味深かったです。特に最後の1枚は、“夢から覚める出口はこちら”と示されるようなアイデアで、学生らしいフレッシュさを感じます。また、影をポイントとして捉え、それらを効果的に使った表現も見どころでした。アイデアとチームワークのよさが生きた組写真になったと思います」





## GROUP E

### 「スピードup」

#### テーマ

「テーマは“視線”です。私たちは、初めての東京に溶け込みながら自分らしい写真を撮ろうとしました。しかし不安から最初は顔を上げられず、1枚目は下を向いて地面を撮影しています。2枚目では少し前を向きましたが、人に声をかけることはできず影だけを撮っています。3枚目では勇気を出して声をかけましたが、正面ではなく後ろ姿。4枚目では街に溶け込もうとしましたが、人の流れは速く、私たちはそのスピードに飲み込まれます。視線の変化とともに、東京の速さと自分たちの心の動きを表現しました」

#### 松尾先生より講評

「人に正面から向き合う作風のメンバーが多かったこともあり、“人”にフォーカスすることをテーマに撮影をスタートしました。人の気配を感じる要素も拾いながら、積極的に声をかけて撮影に挑んでいた姿勢が印象的です。作品は地面から始まり、次第に視線が上がり、スピード感も増していく構成で、初めての都会に少しずつ慣れていく視線の変化がうまく表現できています。また、制作中、気づいたことを丁寧にメモし、考えを深めていく姿勢も素晴らしいかったです」



## GROUP F

### 「忘却」



#### テーマ

「テーマは、にぎやかな東京の中に取り残された“寂しさ”です。1枚目はゴミに焦点を当て、誰にも気づかれない存在を、2枚目は花のない花器に光だけが差す寂しさを、3枚目は落書きやステッカーの残る看板から忘れ去られていく痕跡を写しました。4枚目は壁に映る洗濯バサミの影を捉え、網の中に閉じ込められているイメージです。5枚目は人の多い都会で1人だけを写し、集中したものしか見えない様を表現しました。構成は、足元から入って画面の外へと出ていくという物語にし、色味も統一して世界観を表現しています」



#### 松尾先生より講評

「テーマが最初から明確で、ピクチャーコントロールも統一し、迷いのない制作を行っていましたね。足元のゴミや落書きなど、見過ごされがちなものに目を向け、光の使い方でも感情を丁寧に表現しています。貼った人も忘れていであろう痕跡にまで視線を伸ばす発想も秀逸でした。セレクトもスムーズで、最後まで悩んだタイトルも議論を重ねて満足のいくものに決定できていたと思います。テーマの確かさとチームワークの強さが際立つ完成度の高い作品でした」

# 懇親会の様子

2日目の夜にニコン本社で行われた懇親会。仲間同士でおいしいご飯を囲んだり、自己紹介カードを交換し合ったりなど、学校の垣根を越えて仲間と絆を深める時間になりました!

お疲れさまでした!!

みんないただきます!!



## 「この写真を撮ったのは!?!」 顧問の先生による作品紹介コーナーも!



顧問の先生が撮影実習中に撮った作品を発表し、それを生徒が講評。大人顔負けのコメントがお見事でした!



思い出ムービーで  
サミットを振り返り!!



サミットは来年度も開催予定!!  
また皆さんに会えるのを  
楽しみにしています!!

全国の仲間と交流!!



皆んで書いた  
NEXT CREATORS  
PANEL!!



WEB・SNS展開中!

チェック&フォローお願いします

TopEyeの公式Instagramでは、コンテストの入賞作品や取材のひとコマ、写真展案内など、はりきって更新中。また、ニコンイメージングジャパンの公式LINEではニコンの製品やキャンペーン、ニコンプラザなどの最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください!



「TopEye」  
Instagram



ニコンイメージングジャパン  
LINE



ニコンイメージングジャパン  
「TopEye」WEBサイト